

子宮頸癌検診における 細胞診とHPV検査の有用性と問題点

奈良市総合検査医療センター病理 細胞診⁽¹⁾ 婦人科⁽²⁾
きよ女性クリニック⁽³⁾

安達 博成(CT)⁽¹⁾ 吉田 和弘(CT)⁽¹⁾ 西村 直子(CT)⁽¹⁾ 西田 千鶴(CT)⁽¹⁾
寺本 好弘(MD)⁽²⁾
清塚 康彦(MD)⁽³⁾

目的

子宮癌検診におけるHPV検査の有用性と問題点を細胞診と対比して検討した。

対象

平成18年から平成20年の3年間

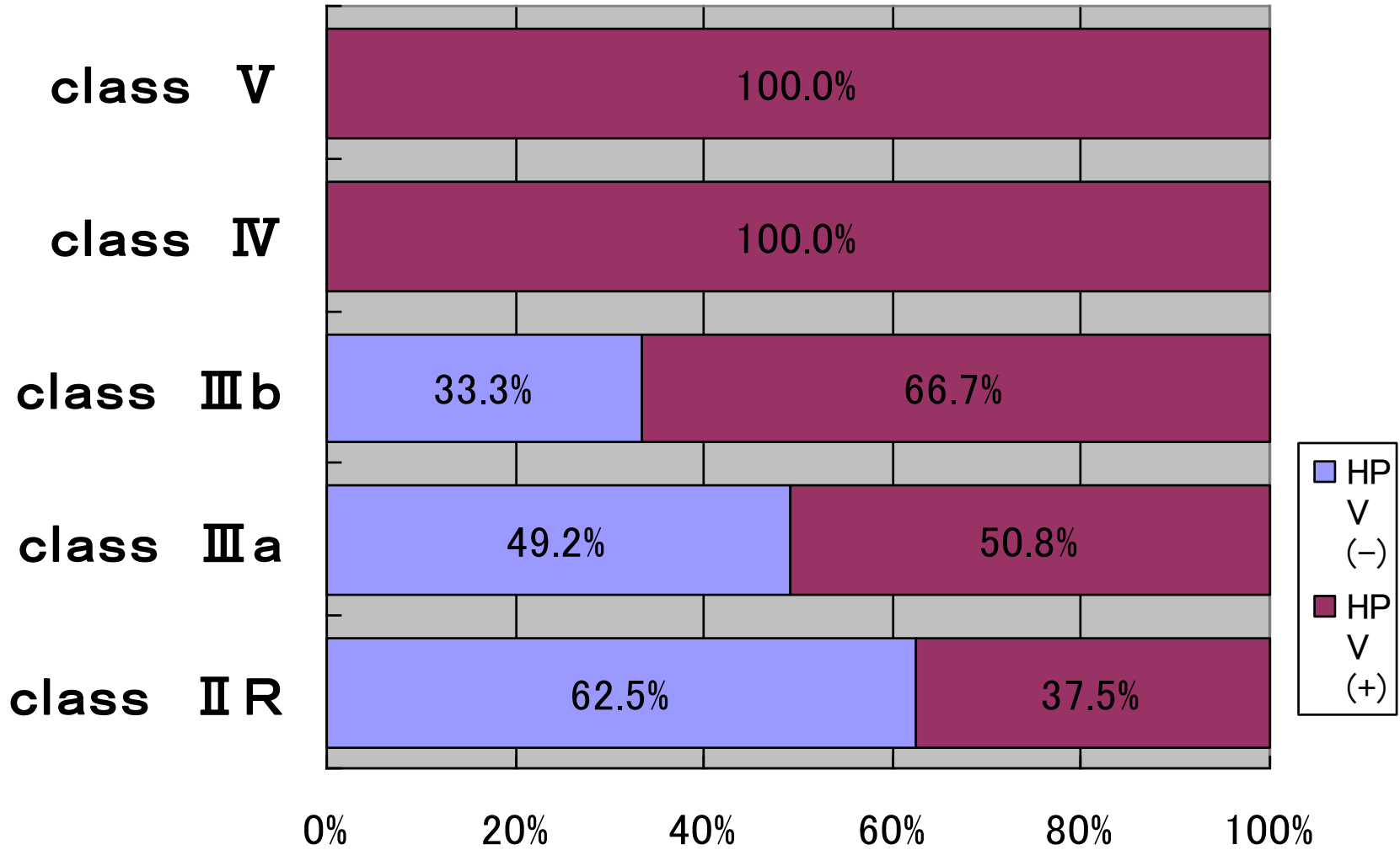
奈良市総合医療検査センターにて子宮がん検診を受診された

計14513名から異常とされた255名 (class II R~V 重複を含む)

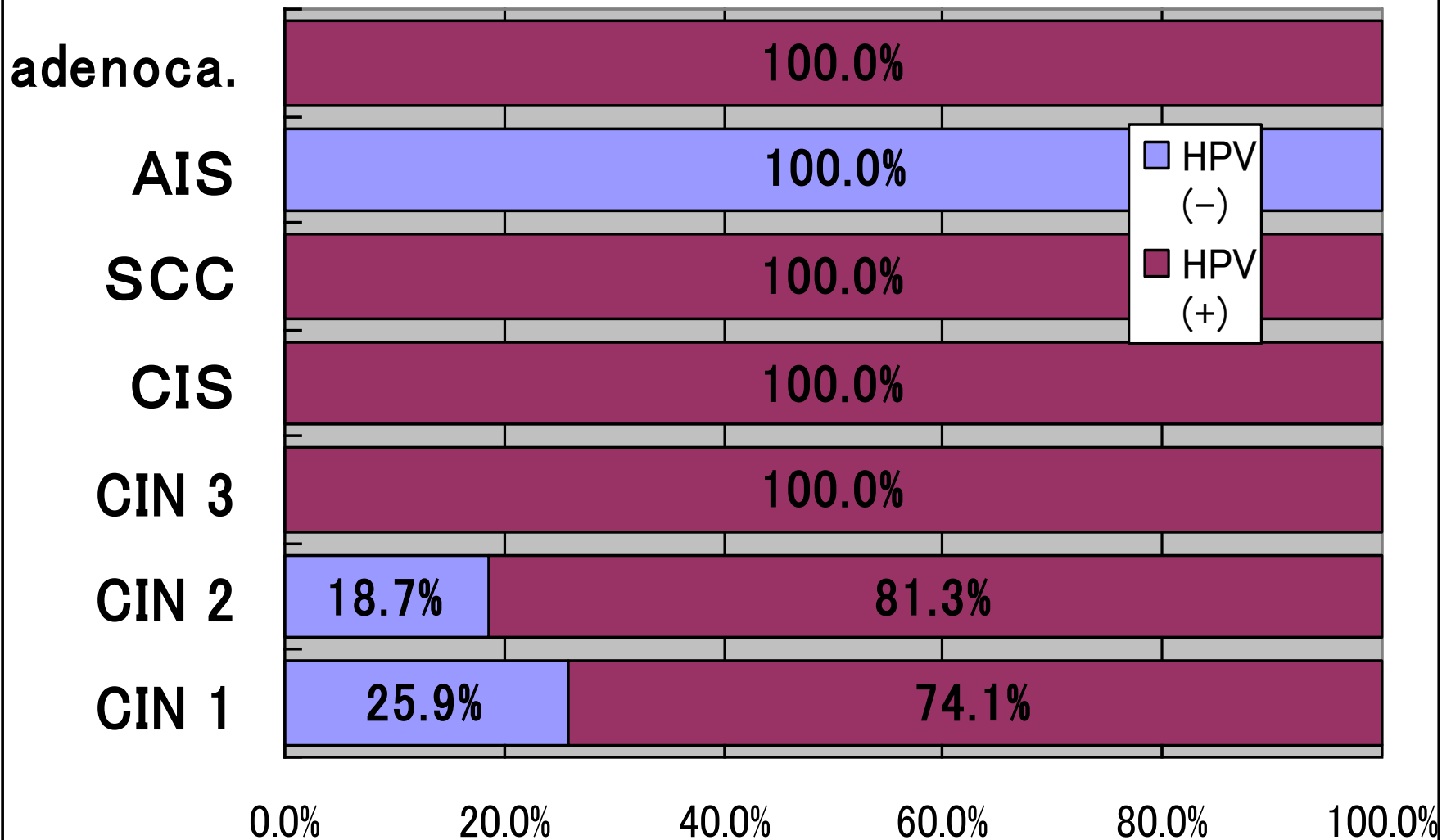
を対象とした。

	18年度			19年度			20年度			計
	HPV 検査 (-)	HPV 検査 (+)	未 実施	HPV 検査 (-)	HPV 検査 (+)	未実施	HPV 検査 (-)	HPV 検査 (+)	未 実施	
class II R	1	2	4	1	0	2	3	1	1	15
class III a	33	29	11	23	24	4	32	38	4	198
class III b	2	7	1	4	7	1	2	2	1	27
class IV	0	1	0	0	2	0	0	3	0	6
class V	0	1	0	0	5	0	0	3	0	9
計	36	40	16	28	38	7	37	47	6	255

判定区分別HPV検査陽性割合



組織診断別HPV検査陽性割合



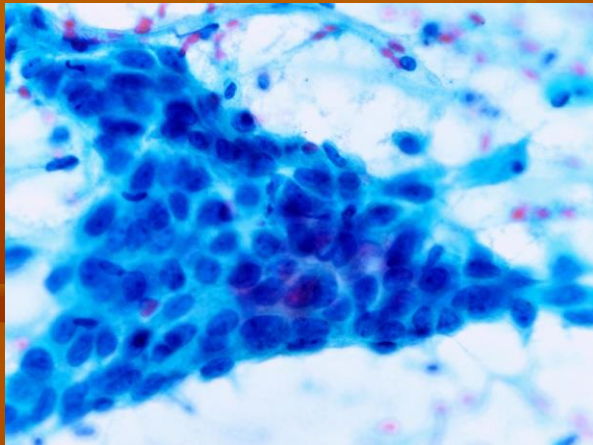
細胞診異常所見とHPV検査経過

Ⅲa Mild.～Mod.	HPV 検査 (－)	HPV 検査 (＋)
細胞診 1年未満でclassⅡ	52例	25例
細胞診 2年未満でclassⅡ	12例	20例
細胞診 ClassⅢa2年以上継続	2例	5例
計	66例	50例

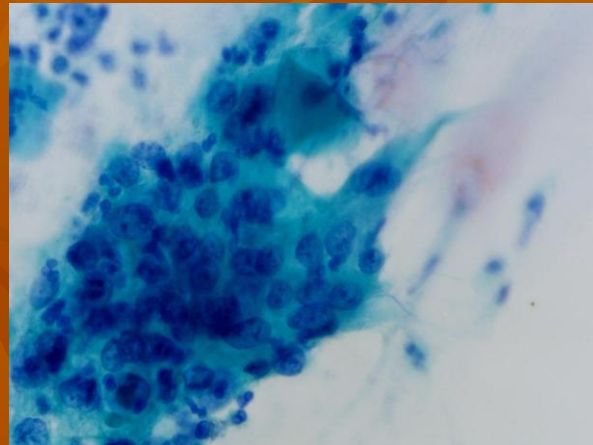
KoilocytoとHPV検査の対比

	HPV検査 (-)	HPV検査 (+)
細胞診 Koilocyto(-)	72.7%	27.3%
細胞診 Koilocyto(+)	29.9%	70.1%

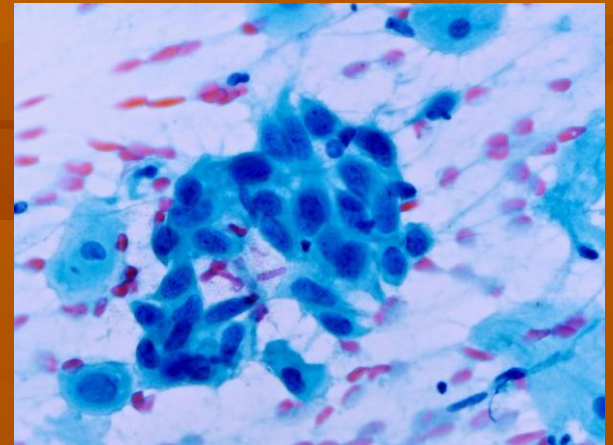
ASC の細胞像と組織診断



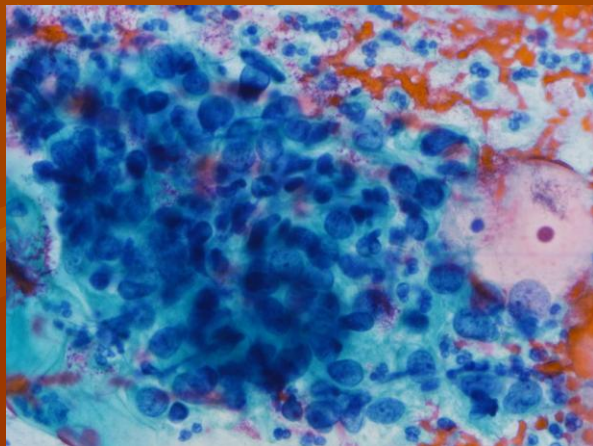
ASC-US(異型化生)



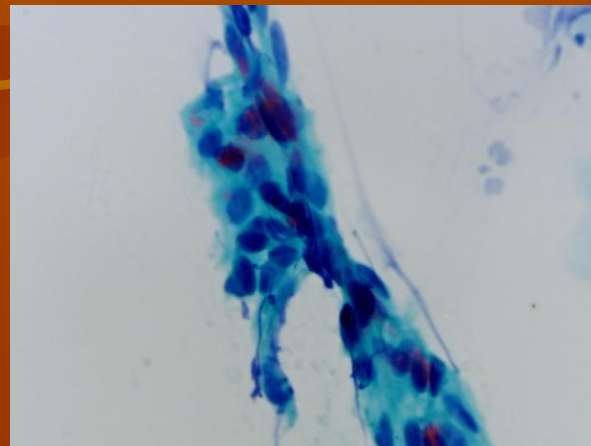
ASC-US(異型化生)



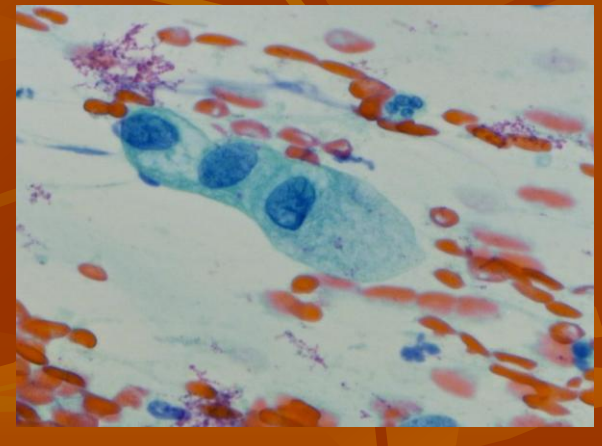
ASC-US (Chr. cervicitis)



ASC-H (予備細胞増生)



ASC-H(CIN 1)



ASC-H(CIN 2)

結 果

- 1.classⅣ以上は全例HPV検査陽性であった。
- 2.classⅡR(ASC)の約40%がHPV検査陽性であった。
- 3.組織診断 CIN3以上にて、
1例(AIS)を除きHPV検査陽性であった。
- 4.2年以上の経過観察において、
HPV検査陰性 細胞診Ⅲaの症例が存在した。

考 察

- 1.ASCの判定には、良性異型から腫瘍性病変まで広く含まれる為、HPV検査は必須である。
- 2.「CIN1」、「CIN2」ではHPV検査陰性症例があり、細胞診との併用が重要と考える。

問題点

- 1.HPV検査のタイピング
2. ASC細胞像の再検討
- 3.高額なHPV検査費用